

2026年1月16日

地域交通維持の現状と関係者連携

～バス事業者の視点で～

西武バス株式会社 関根 康洋



会社概要



【沿革】

1932年12月 埼玉県浦和町（現さいたま市）にて「東浦自動車」として設立

1946年 3月 武蔵野自動車株式会社に社名変更

1947年11月 西武自動車株式会社に社名変更

1969年 4月 西武バス株式会社に社名変更

営業所：11営業所

東京都内：練馬・上石神井・滝山（+西原車庫）・小平・立川

埼玉県内：新座・所沢・大宮・川越・狭山・飯能

車両数：乗合857両（コミュニティバス・高速バス含）貸切12両

社員数：乗務員1,315名 事務員345名 整備士93名

【当社関連会社】



営業所：東京1・埼玉3・長野1

車両：乗合62両（高速バス含）貸切52両

社員：乗務員120人 事務員50人



営業所：東京1・埼玉5

車両：特定226両

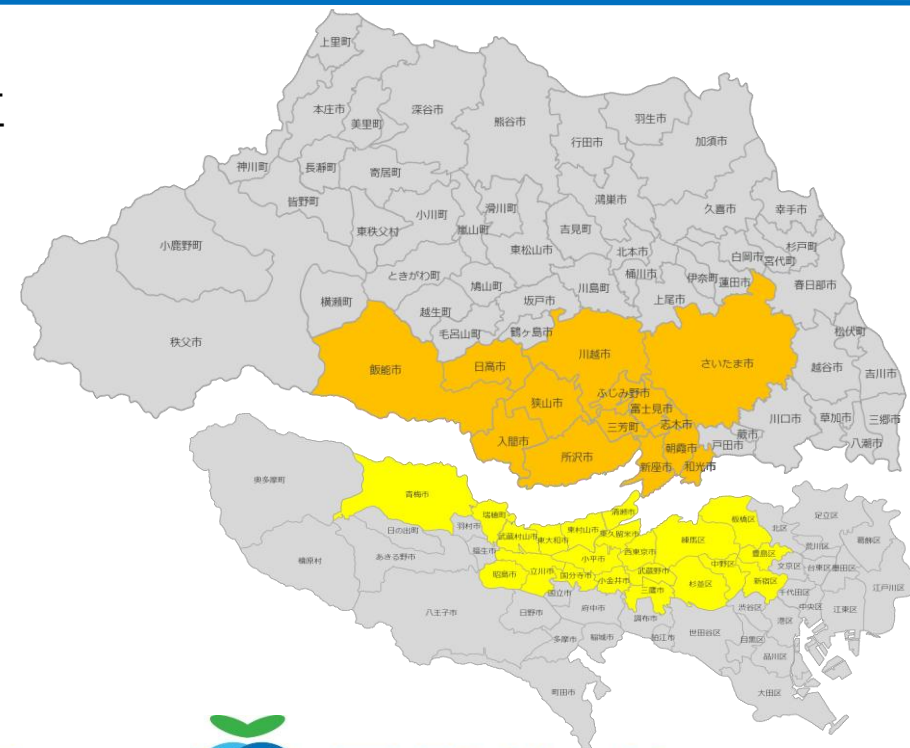
社員：乗務員277人 事務員24人



営業所：東京3・埼玉4(+乗合11両)

車両：ハイヤー32両 タクシー272両

社員：乗務員552人 事務員116人



【業界動向全般】

- ・コロナ禍以降、「旅客収入減少・燃料費高騰・改善基準告示対応・担い手不足問題」の対応に苦慮
- ・改善基準告示対応により、一人の乗務員の輸送力（労働力）が減少傾向
- ・利用が集中する朝の運行本数確保のため夜間の本数が削減基調となり、特に20時以降減少、終バス繰上げ等も実施
- ・ここ数年の旅客収入は復調しているものの、需要旺盛なエリアと頭打ちエリアの二極化傾向がみられる（日祝日利用低調）
- ・燃料費高騰については暫定税率廃止等で一定の目途がついたが、様々な物価高騰影響により費用増となり、収支は厳しい

【営業施策関係】

- ・2025/6/1 東京23区・武蔵野市地域運賃改定実施（均一230円）、2026/7/1 多摩・埼玉地域運賃改定予定（初乗り200円）
- ・閑散期の需要喚起策として「西武鉄道×西武バスおトクにおでかけきっぷ」（一日券）を発売（11月～3月）
- ・高速バス新潟線運行開始40周年を記念したイベント、割引施策等を実施

【環境・次世代モビリティ関係】

- ・環境に配慮した車両として、FCバス、EVバス（コミュニティバスでも2自治体導入、清瀬市・所沢市）
- ・自動運転については自社単独でレベル2での実証実験を実施（2020年・2023年飯能営業所管内）
- ・2024年にはJR東日本・西武HD共催の軽井沢町における自動運転バス実証運行に参画
- ・昨年秋にはさいたま市の自動運転バスの実証運行に参画（北浦和駅～埼玉大学）

FCバス（2020年導入）



担い手不足に向けた取組について

【広告関係】 動画CM (YouTube) ・ポスター



西武バス公式チャンネル【SEIBU BUS Movies】

@seibusmovies780 ・チャンネル登録者数 1440人 ・30本の動画

このチャンネルの詳細...さらに表示

チャンネル登録



← ↑テレビCMでも放映



誇りが芽生える。
地元を支える。



バス運転士 募集
事務員・整備士 募集
お問い合わせ 04-2995-8115
西武バス 採用



←西武鉄道車内
トレインジャック

担い手不足に向けた取組について

【SNS活用】 Tik Tok・Instagram



【最近の取組】

◎ 乗務員

- ・新卒乗務員の採用（昨年19歳で運転士デビュー!!）
- ・都内営業所運転士確保のため、新たに都区内に借上社宅を手配（+入居期間の延長）

- ・自衛隊にて運転体験会の実施

◎ 整備士

- ・整備士資格取得支援制度の拡大（高卒採用の専門学校学費補助・大型一種免許取得支援等）

◎ 事務員

- ・夏季インターンシップ（5日間）導入での囲い込み
- ・転職サイト等で中途採用実施

ニュースリリース

2025/11/08実施

任期制等自衛官対象バス運転体験会@航空自衛隊入間基地 →

2025年11月25日

News Letter

Seibu Group | SUSTAINABLE GOALS
西武グループの持続可能な開発目標（SDGs）を推進しています。



航空自衛隊入間基地にてバス運転体験会を実施 任期制等自衛官を対象に就職支援へ

この度、西武バスにおいて、航空自衛隊と協力し、航空自衛隊入間基地において自衛官約40名を対象としたバス運転体験会を実施いたしました。

運転体験会は、11月8日に実施し、入間基地内に大型バス2台を持ち込み、基地内駐車場に特設した「8の字」コースにて、1人約5分間大型バスの運転を体験していただきました。この取り組みは、大型二種免許の保有者数が年々減少し、当社でも採用活動に力を入れる中で、運転士職の魅力ややりがいを知っていただくほか、自衛官が再就職する際のキャリア形成に役立てていただくことを目的としています。約40名の自衛官の方に参加していただき、運転の難しさや楽しさ、また西武バスグループ養成制度についても理解を深めていただきました。



大型路線バスの運転を体験する自衛官の様子



自衛隊に持ち込んだ大型バスの様子

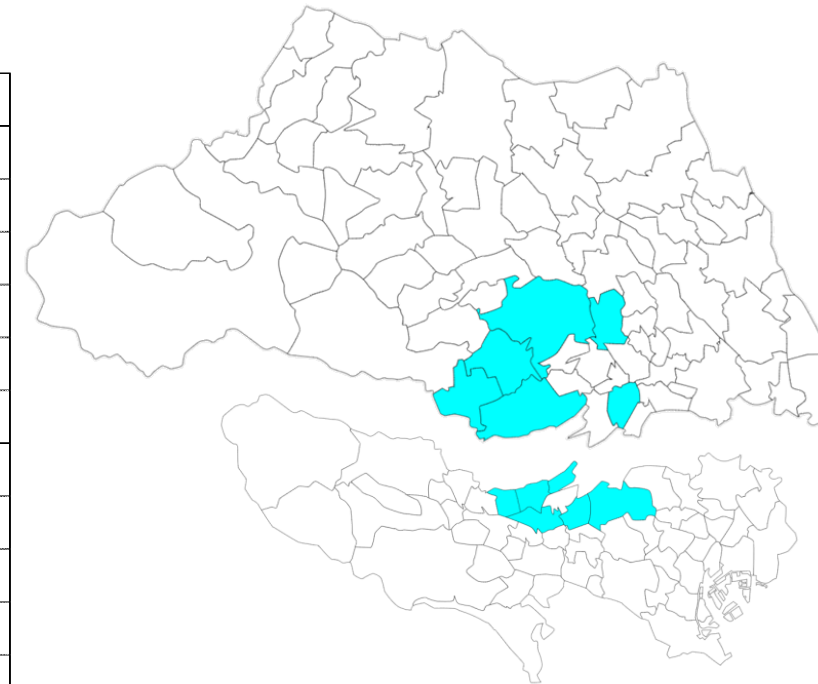
多くの自衛官は、50代半ば以降（若年定年制自衛官）または20代～30代半ば（任期制自衛官）で退職することになります。大型免許の有無を問わず、多くの自衛官の方に運転を体験してもらい、バス停留所に見立てたパイロンへの横付け停車や現役運転士との質疑応答など幅広く体験していただきました。今後も、西武バスグループでは、今回のような機会を幅広く設けるほか、運転士募集CMの放映など、運転士確保に向けた様々な施策を強化し、積極的な採用活動を推進しています。加えて、自社研修所での研修制度の拡充をはじめ、引き続き、安全・安心の輸送サービスの実現に向け、より広く社会や地域の皆さまへの貢献に繋がる取り組みを進めてまいります。



説明を受ける自衛官の姿

【受託自治体一覧】

自治体名	名称	運行開始年	平日仕業数	車両数	現行運賃	備考	
埼玉県	さいたま市西区	—	2003	3	3	初乗り180円	
	朝霞市	わくわく号	1994	3	2	150円均一	運行開始当初初乗り170円
	川越市	川越シャトル	1996	5	6	初乗り180円	
	所沢市	ところバス	1998	11	12	初乗り180円	
	狭山市	茶の花号	1998	4	3	初乗り180円	
	入間市	ていーロード	1997	4	4	初乗り180円	
東京都	練馬区	みどりバス	1991	14	13	230円均一	
	西東京市	はなバス	2002	13	10	150円均一	運行開始当初100円運賃
	東村山市	グリーンバス	2003	8	7	180円均一	運行開始当初100円運賃
	清瀬市	きよバス	2007	2	3	180円均一	運行開始当初150円運賃
	小平市	にじバス	2004	4	3	150円均一	運行開始当初100円運賃
	東大和市	ちよこバス	2003	6	3	180円均一	運行開始当初100円運賃
計12自治体受託			77	69			



そのほかに西武観光バスで2自治体受託
(埼玉県秩父市・長野県軽井沢町)

現在のバス業界をとりまく環境下においては、コミュニティバス受託運行そのものが厳しい状況
コミュニティバスの利用実態、また既存路線バスや他のモビリティとの棲み分け等も考慮した輸送規模を検討

【最近の当社におけるコミュニティバス対応事例】

小平市「にじバス」(2024年10月実施)

所要時分見直しによる運行本数減回、土休日ダイヤ設定、年末年始6日間運休

西東京市「はなバス」(2024年12月実施)

年末年始土休日ダイヤ運行を年末年始6日間特別ダイヤ設定

東大和市「ちょこバス」(2024年12月実施)

元旦のみ運休を年末年始6日間運休、土曜日ダイヤの見直し(平日ダイヤ運行から日祝日ダイヤ運行へ)

清瀬市「きよバス」(2025年10月実施)

運行本数を見直し

朝霞市「わくわく号」(2026年4月実施予定、現在最終調整中)

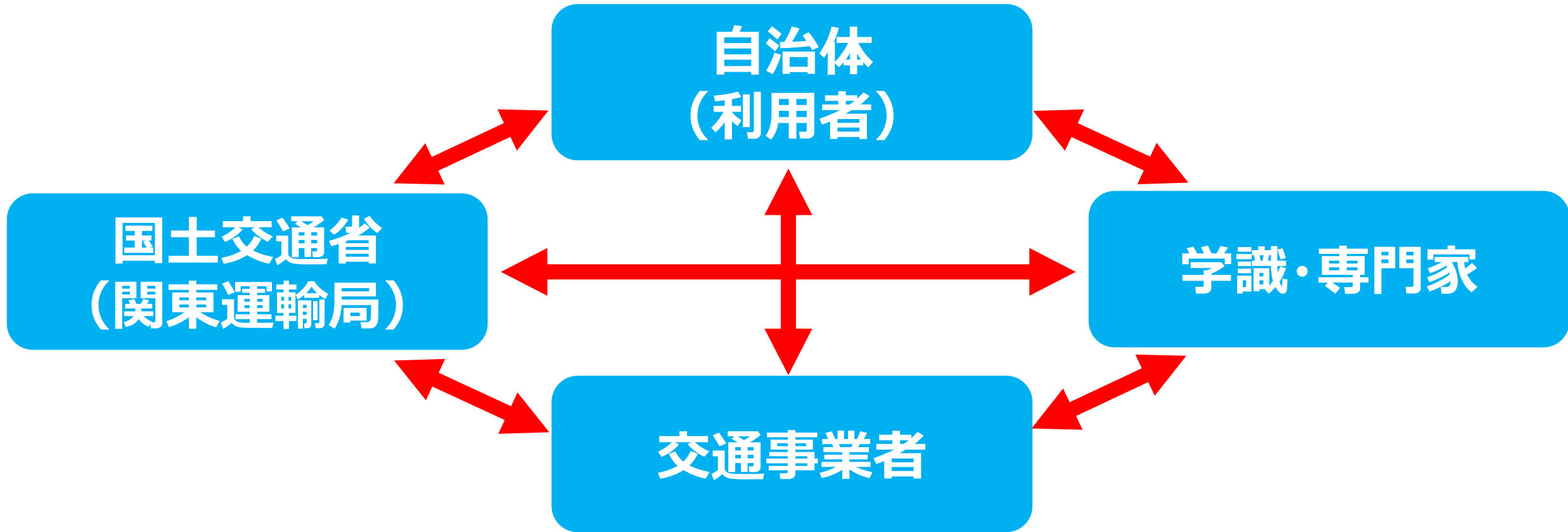
系統再編(当社系統廃止エリアをわくわく号でカバー)、乗務員休憩場所見直しによる改正

改善基準告示見直し(2024年問題)や担い手不足等により乗務員運用が厳しい状況を鑑み、コミュニティバスの利用状況を精査、各仕業の拘束時間短縮や稼働日数減について各自治体担当部署と調整を実施。

【一事業者の見解】 **当社は現在沿線32自治体において公共交通会議等に関わっています**

- 少子化やライフスタイルの変化により移動総数は減っているものの、高齢化等福祉の側面からも必要性は高まるものと思料、限られた輸送力（労働力）を効果的に展開するためには、路線バス、コミュニティバス、デマンド交通等の棲み分けが大切（鉄道⇔バスとの乗換だけでなく、バスやデマンド同士での乗換等も許容する文化の醸成、モビリティマネジメントも必要か）
- バスそのものは「目的」にならず事業者が需要を創出することは難しい、外出という目的があって初めて「手段」としてバスをご利用いただけるものであるので、交通網の再構築とともに外出需要喚起策等も同時並行で進めてほしい
- バスは鉄道と違い、インフラ面は公道を借りて運行しているので、自治体や地元の理解がないと運行が不可能、終点等の折返場等も賃借している場所も多く、地主さんの意向次第で運行に支障が出てしまう（過去に実例有）、また近年は停留所も宅地造成等で移設を余儀なくされることが多く、適切な移設先が見つからず対応に苦慮している現状
- バスの利便性（本数もそうだが特に定時性）を維持するには起終点でのバス待機環境も重要、起終点での待機時間を確保できることが遅延の早期回復に繋がるものと考えている、駅前広場整備時等は早めに協議をさせていただきたい
- 一方で市町村レベルでの調整になると、境界域や生活圈域が他自治体となるエリアまでは対応しきれない可能性あり、広域連携（例・多摩六都5市、埼玉県西部地域まちづくり協議会、ちちぶ定住自立圏など）必要、都県レベルでの舵取りや調整もお願いしたい

**関係者が一堂に会する地域公共交通会議等（協議会）の重要性はますます高まっていく
近隣自治体との連携も視野に広域で公共交通への諸問題を共有・理解していくことが大切**



自治体（利用者）・国土交通省（関東運輸局）・学識・専門家・交通事業者 4者の連携が重要
それぞれの立場があるので、情報共有・相互理解を図り最適解（妥協点）を導き出せるようにする

ご清聴ありがとうございました。



西武バス公式
マスコットキャラクター

エンジエ

